

漢法苞徳塾資料	No. 011
区分	論説
タイトル	医療の緊急事態を考える（崖淵にたつ西洋医学）
著者	八木素萌
作成日	1996.12.29

日本歯科大学の吉川昌之介氏は、岩波書店の雑誌『科学』（1996・11月号）の「巻頭言」に「細菌の逆襲」と題する文を書いている。

その要旨は

……今夏日本は「O157:H7」という新型病原菌に襲われ……インド亜大陸では、4年前、新型コレラ菌によるコレラが爆発的に流行した。……この半世紀、ヒトは魔法の弾丸、“抗菌剤”によって善戦しその威力は素晴らしかった。しかし、細菌は変異をおこし……きわめて効率よく選択された耐性菌が地球上に蔓延することとなったが、これは、自然環境に遺伝情報の水平伝播を媒介する運び屋が圧倒的に増加し、病原性遺伝子と耐性遺伝子がいっしょに水平伝播され、……抗菌剤の乱用は、耐性菌の新顔病原菌を選択的強者に変えるニッチを提供し、その伝播・拡散を促進する。……新しい抗菌剤の開発が耐性菌の出現とシーソーゲームを演じつつも追いつけるならばよい。現況下ではきわめて近い将来に追いつけなくなろう、その日を前に“万策尽きた状態”にある。……

と述べて、緊急な対策として、次のように

- a：ワクチン開発ナドノ予防策ノ緊急ナ整備。
- b：迅速・正確ナ細菌検出ト診断方法ノ開発トシステム改善。
- c：抗菌剤ニ代ワリウル医薬品ヤ新治療法ノ開発ヲ近年ノ医学・生物学進歩ニ見合ウヨウナ量・質ノ規模デ行ナウ。
- d：病原体ヲメグル情報伝達ノ近代化。
- e：大規模流行ニ対処シウル行政組織ノ整備。

5項目の必要性を訴えているものである。

これは、もはや取り繕いようも無い程に行き詰まっている現代西洋医学の危機を告白した論文である。1981年・岩波現代選書から翻訳出版された本・著名な科学ジャーナリストのB. ディクソンが『近代医学の壁－魔弾の効用を超えて－』で明らかにして以来分りきっていたことである。当時大変話題になった書であるが、近代医療体制は20年に及ぼうとする十分すぎる程の時間がたったにもかかわらず、何もしなかったと言う他は無い。これは、問題がパラダイムにあることを吉川氏が意識していないのではないとも見えることに関連していよう。彼は明らかに「新しい治療法」を、近代科学のパラダイムで見出しようと考えている。積極的に、質的に異なる別のパラダイムを求めて行くことによって「新しい治療法」が得られるだろう、とは夢にも思っていないようである。

医療のパラダイムとシステムが、どう転換することが適切であるのか？という問題が突き付けられているのであるから、現代社会における社会的価値観と経済的・法制的なものの総合された社会的パワーの重みの中、かかるシステムの中に枢要な権威と権力を手中にしている西洋医者が、格別に責任を課せられているからこそ、事態に対応する方途を見出さなければならない、という責任の重圧は大変なものである。

現代の西洋的（現代的と一般に言われている）医学・医療の、破局的な行き詰りに対しては、漢法家・漢法医学の臨床家にも、西洋医者達とは「逆な意味」「全くの反対側から」責任がある事について問われなければならないのである。何故ならば、「カヤの外」にしかいない漢法家も、漢法医学は近代医学とは全く異なるパラダイムと方法論に立脚しており、成文化された3000年に及ぶ蓄積を持ったものであるから、しかも、社会的には「傍流に貶められている」とは言え、疾病と格闘しているのであるから、漢法家・漢法医学の臨床家は西洋医者達とは全くの反対側から、責任を問われているのだと言わざるを得ないのである。

漢法医学・医療の3000年にも及ぶ臨床実績の蓄積があり、また成文化されている蓄積もあるのに、現代医療の破局的危機に、彼のパラダイムに入れ替わり得る質のパラダイムを持っているのに、交替に必要な準備をしないで来たと評せざるを得ない怠慢を挙げなければならないのである。

一昨年（2019）の春、日本物理学会・米沢富美子会長は『日経サイエンス』（1995・6月）誌の「百家争鳴」に「複雑液体の研究を通して」を書いている。その中で“科学の広い分野でパラダイムシフトの機運が盛り上がっている”が、それはトーマス・クーンの『科学革命の構造』に指摘するパラダイムシフトが起こる条件を、“現時点”の状況を一言でまとめにくいと言いつつも“究極的には、要素還元論、分析的手法、単純化などのキーワードに集約されるこれまでの科学のパラダイムでは説明がつかないように見える事実が目立ちだしたことが挙げられる”と今日的な問題性の提示として指摘しつつ、さらに論を進めている。“複雑系の科学”の方向を打ち出そうとする動きが登場してからもうかれこれ10年経っているが、それらよりも、もっとジックリとした運動論に拠って、そのテコとなるやり方を述べている。“複雑液体という難解なテーマを対象として、物理学の分野でこれまで打ち立てられてきたさまざまな方法論を、十分に検討しなおし、その可能性と限界を見極めたい、その中から新しいパラダイムへの突破口を探したい”と言うのである。これは、具体的な運動（仕事）を積み上げる経過の中に、課題の本質的な解決へ向けての展望を見ている論であろう。実に見事なものである。

現代思想の最大の認識論的・哲学的な達成として「“はたらきがある”ときには、必ず“その働きを担っているモノ・もしくは機構が存在する”」というのがある。これは、近年における生理学・生物学・生命論からの達成であって、1950年代に新しい生命論を生み出した思想であるともされている。

これは極めて強力な論である。この生命論からの思想は、実は「基底還元主義」と言われている現代科学の思想方法に、新しい時代を予感させていたのであったと言ってよいであろう。

漢法医学の膨大な「歴史的」な「蓄積」を余すところ無く掘り起こして、その内容を紹介し、世間に説得的に働きかけて行くと言う仕事・臨床的な強力な成果を突き付けるかのように提示して行く仕事・そう言う治療実力を備えた臨床家を殖やす仕事・漢法医学が持っている強力な救急・救命治療力を世間に強く実証し、また紹介する仕事・など等を組織的に十分に展開していなかったのである。と言うより

もやる事が出来なかったのであるから、漢法家も責任を突き付けられているのである。つまり怠慢なのである。

それにつけても、「中西合作」医学論にしても、「気の医学」論にしても、「未病治の医学」論にしても、突き付けられていた本質的な課題に、力を傾けて取り組まなければならなかった関心とエネルギーとを、逸らしてしまう役目しか果たさなかったのではあるまいか？或はまた、ホリスティックな諸現象を数え立て指摘するのみでは、新しいパラダイムの為の契機を示していると言えるかどうか？甚だ心もとないのである。

漢法医家の陣営は、力を傾けて上述のような「怠っていたと言わざるを得な」かった仕事の遅れを、至急に取り戻さなければならない。その為には

- 1 早急に国立の「漢法医学研究所」を設立し、
- 2 うえの研究所で、基礎研究・臨床研究・学術的資料や臨床資料の、歴史的なものも今日的なものもデータベースとして整備蓄積する事・早急に救急治療や重病治療や難病治療を担当できる治療家を専任する事、また、このような臨床力を持つ臨床家を養成出来るように養成機関を組織する事、
- 3 フォトン増幅装置を用いて「ツボ」から発せられている「光」を捉えたと報告されているように、CTスキャンやMRIスキャナーや遠赤外線撮影装置などは勿論のこと、現代技術で開発可能な機器も含む各種の最新の観察機器が、「漢法国立研究所」に設置・運用する事、それは、東洋医学のパラダイムで運用されねばならないのは論ずるまでもない。
- 4 それらは「情報公開」的に関心ある人に開示される事

などが実現されるように努めなければならぬまい。そう言う方向で運動して行ける体制を積極的に指向すべきである。

ついでながら言えば、現代の中国本土における『中医学』には、パラダイムが西洋医学とは本質的に異なるものであると言う認識は皆無に見える事を指摘して置かなければならない。

医療の分野では、基礎的研究分野の諸問題には、米沢富美子が指摘しているような「要素還元論・分析的手法・単純化」に、包括されるような面は否定できないであろう。臨床医学の面における問題性は、生理学的な人体理解は極めて精緻な達成と、それを臨床的に診断に応用する面では、かなり急速に成立している。しかしながら、その実際の適用には、大変なバラツキ、デコボコが目立っているのは事実である。また、薬学の面での、極めて生理的な成分に鋭敏に作用する薬剤を設計して作成したものが、大幅に増大しているのであるが、この治効の確認と、臨床応用には、「病原菌は殺滅させればよい」＝「抗菌剤の投与」、「病変部位は除外する」＝「外科手術」、「炎症には消炎剤」～中心は副腎皮質ステロイド剤～と言う具合に、「局部処置」主義・「現象消去」主義の方法論から半歩も出ていない上に、実際面ではバラツキは甚だしい。近年では『免疫』を重視すべきであると言いながら、薬剤は「免疫抑制剤」以外には、或は「抗ヒスタミン剤」「ビタミン剤」「鎮痛鎮静剤の中心となっている“ピリン剤・非ピリン剤系統”の各種誘導剤」などで、目新しいものは「最新の分子設計技術を駆使して合成した極めて効率的に目的に適う薬品」と称している「医薬品」であるが、「治効」と「毒性」のスクリーニングにはかなり問題を孕んでいる。

何よりも問題なのは専門情報が秘匿されて一般が入手し憎い事と、認可された後にあたらしく見付かった問題や予想を超えた事態などが、基本的には事実において秘匿されている、等の諸点にあると言える状態だろう。